

2022年度ディプロマポリシーに関連した能力に関するルーブリック調査

(自己評価アンケート)

対象：商学部4年次（卒業許可者）

2019年度入学（1年次）・2021年度入学（3年次編入）

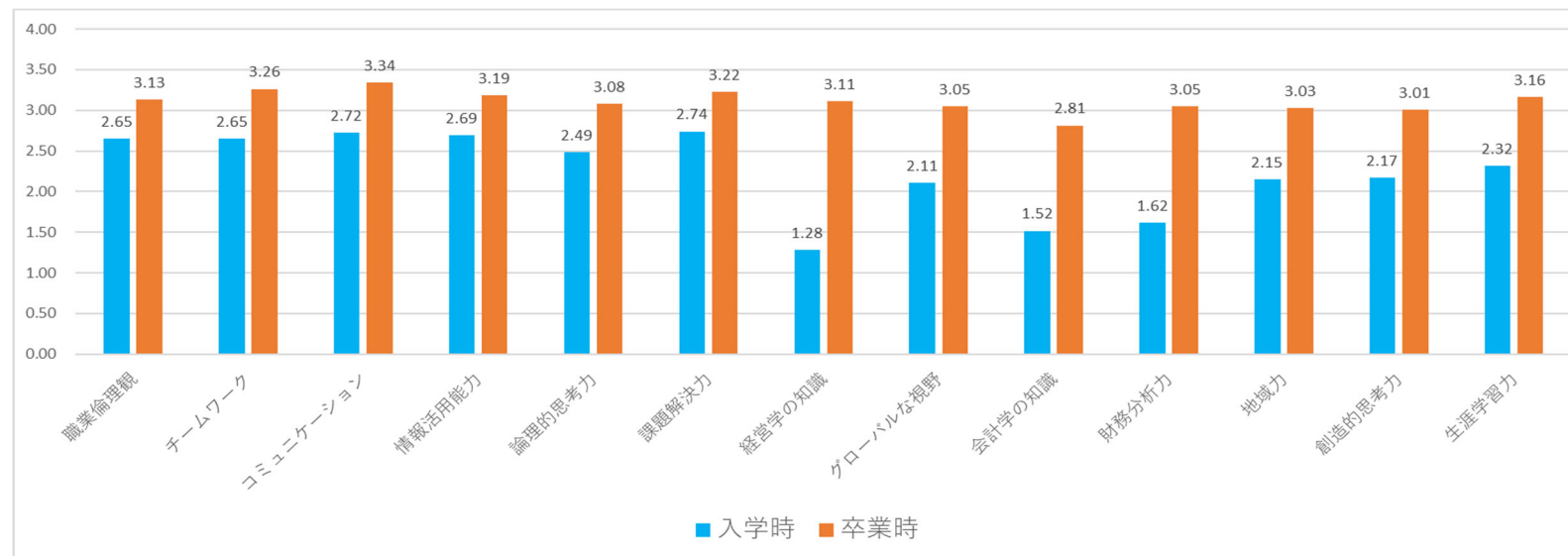
アンケート実施期間：入学時 2019年4月・卒業時 2023年1月

アンケート回答率：99.5%（194名/195名）

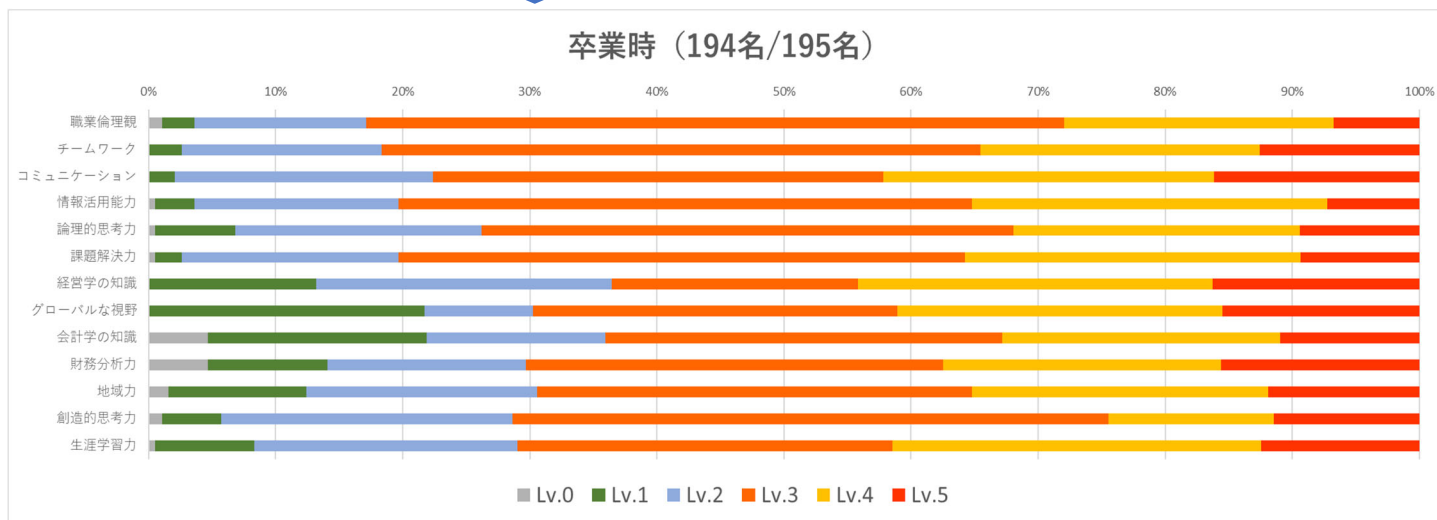
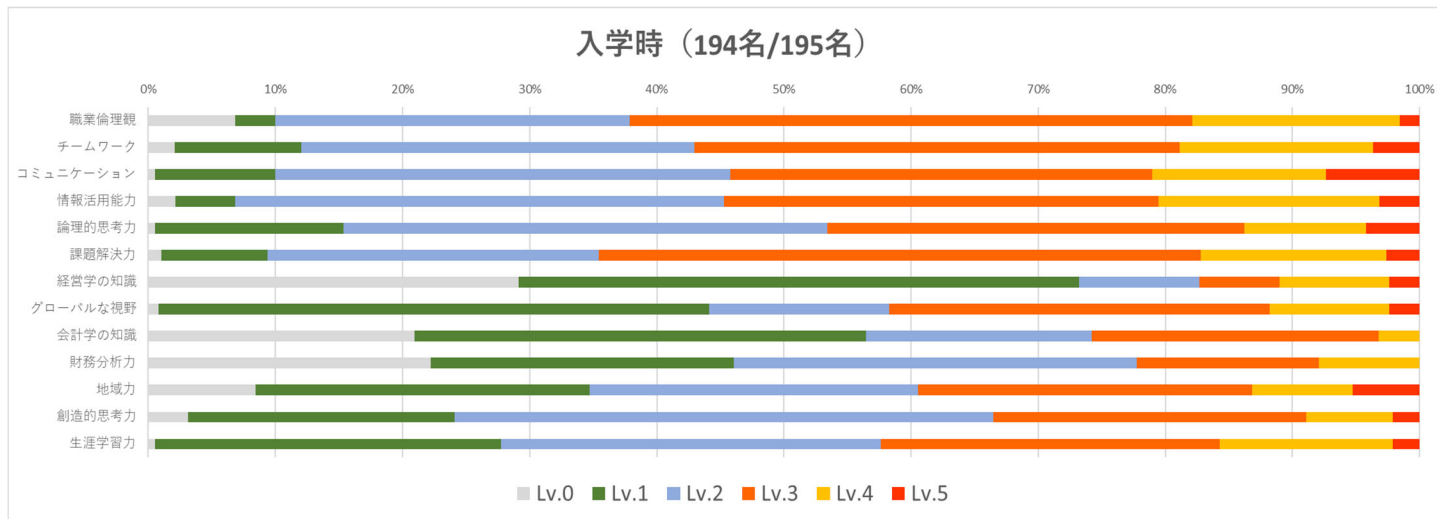
商学部全体

	職業倫理観	チームワーク	コミュニケーション	情報活用能力	論理的思考力	課題解決力	地域力	創造的思考力	生涯学習力	総平均値
入学時	2.65	2.65	2.72	2.69	2.49	2.74	2.15	2.17	2.32	2.35
卒業時	3.13	3.26	3.34	3.19	3.08	3.22	3.03	3.01	3.16	3.13
差異	0.48	0.61	0.62	0.49	0.59	0.48	0.88	0.83	0.84	0.78

〈グラフ1〉



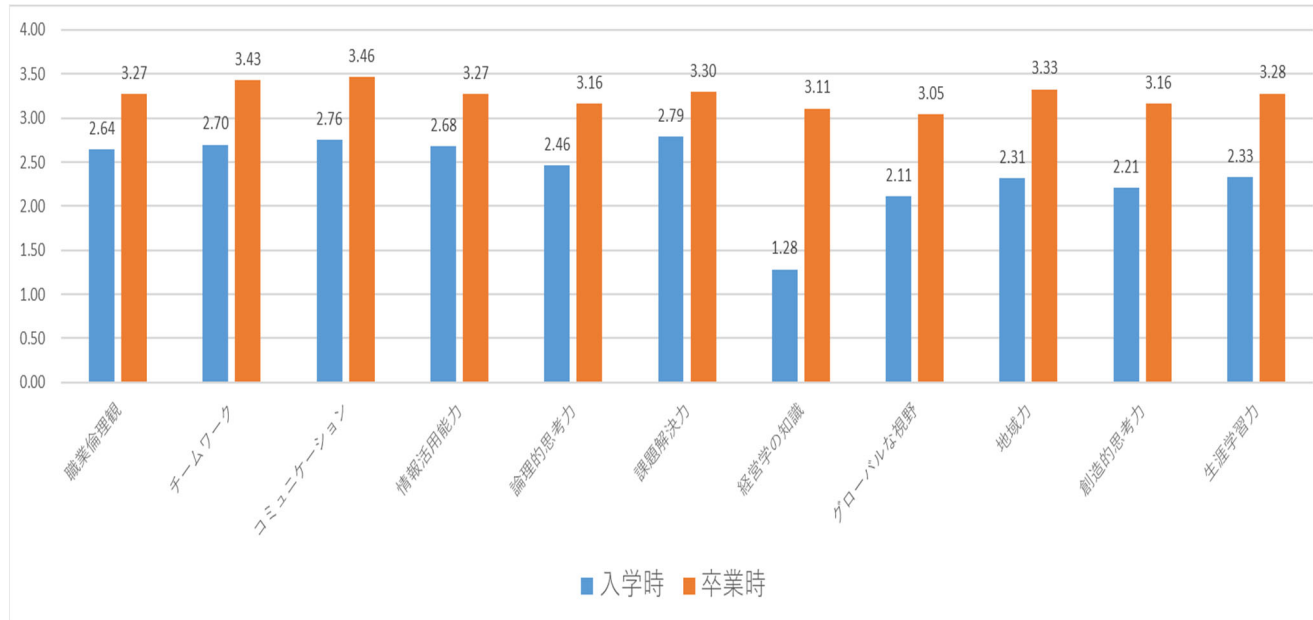
〈グラフ2〉 割合比較 商学部全体（暖色系はレベル3～5、寒色系はレベル0～2）



経営学科

〈グラフ 3〉

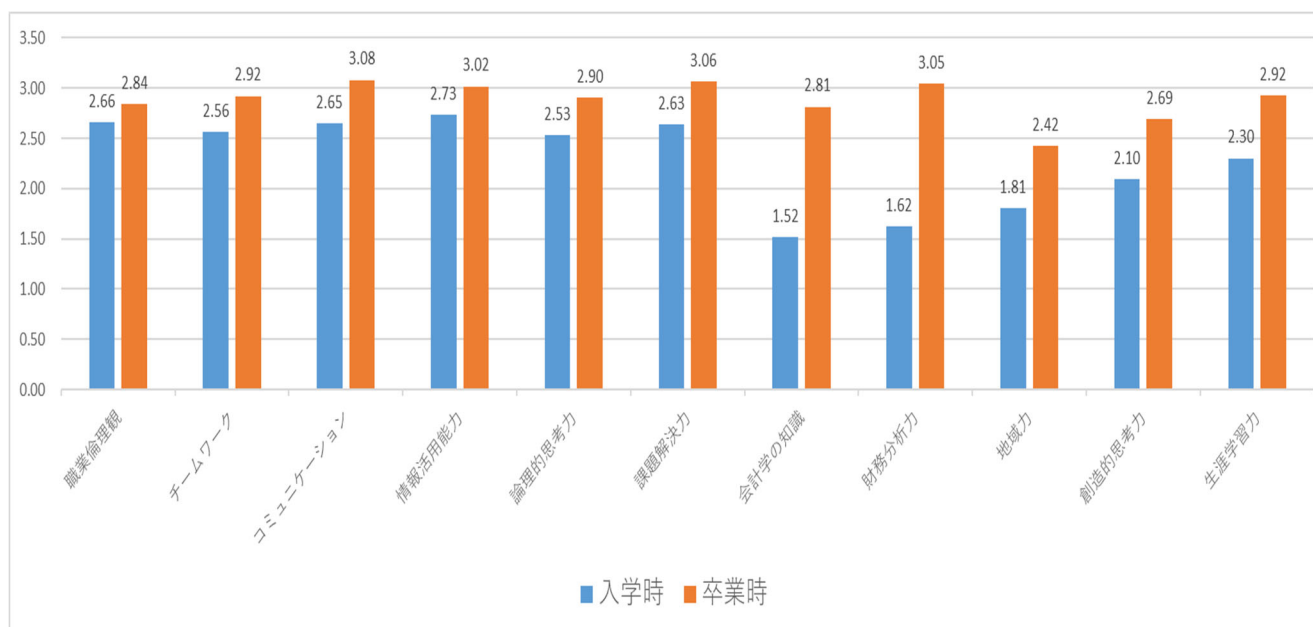
	職業倫理観	チームワーク	コミュニケーション	情報活用能力	論理的思考力	課題解決力	経営学の知識	グローバルな視野	地域力	創造的思考力	生涯学習力	総平均値
入学時	2.64	2.70	2.76	2.68	2.46	2.79	1.28	2.11	2.31	2.21	2.33	2.39
卒業時	3.27	3.43	3.46	3.27	3.16	3.30	3.11	3.05	3.33	3.16	3.28	3.26
差異	0.63	0.73	0.71	0.59	0.70	0.51	1.83	0.94	1.01	0.95	0.95	0.87



会計学科

〈グラフ 4〉

	職業倫理観	チームワーク	コミュニケーション	情報活用能力	論理的思考力	課題解決力	会計学の知識	財務分析力	地域力	創造的思考力	生涯学習力	総平均値
入学時	2.66	2.56	2.65	2.73	2.53	2.63	1.52	1.62	1.81	2.10	2.30	2.28
卒業時	2.84	2.92	3.08	3.02	2.90	3.06	2.81	3.05	2.42	2.69	2.92	2.88
差異	0.18	0.35	0.43	0.29	0.37	0.43	1.30	1.43	0.62	0.59	0.62	0.60



《所見》

このルーブリック調査は、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に関連する能力・知識をルーブリックの形式で、入学時と卒業時に学生自身が自己評価したもの。

商学部全体では、どの項目においても、入学時のレベル 2.0 台から卒業時 3.0 台に上昇し、総平均値では 0.78 ポイントの上昇がみられた。〈グラフ 2〉の割合比較からもわかるように、入学時は寒色系（レベル 0～2）の割合が半分近くを占めていたが、卒業時には暖色系（レベル 3～4）の割合が全体の 2/3 程度を占め、全体的に底上げされ、本学の教育プログラムの効果があったと言える。特に「経営学の知識」「会計学の知識」については、入学時 1.0 台から、他の項目同様 3.0 以上レベルまで引き上げることが出来、それぞれの専門性を備えた人材を地域に輩出することができたと考えられる。

経営学科では、「経営学の知識」他、「グローバルな視野」「地域力」「創造的思考力」「生涯学習力」のポイントの伸び率が高かった。経営学科では、1 年次よりフィールドワークやビジネスにおける課題解決を実践的に取り組む機会が多いため、企業や地域の方との関わりを通して、これらのスキルが養われたと考えられる。現にアセスメントテスト（社会で求められるスキルを客観的に測るテスト）のヒアリング調査（伸び率が高かった学生 20 名程度に実施）でも、「内外部の人と多く関わった重要性」を挙げた学生が多くみられた。一方で、課題解決に実践的に取り組む機会が多いのは確かだが、直接的に課題解決力の伸長に寄与できていない。プロセスから得られるスキルは伸びているが、課題解決という結果による達成感が得られていないと考えられる。授業や課外活動において、フィードバック等による学修内容の理解と客観的な成果の認識を進めていくことが重要だと思われる。「情報活用能力」では、卒業時 3.27 ではあったが、大きな伸びが見られなかった。AI の進化で社会が急速に変化していく中、情報活用能力は必須であるため、授業運営や課外プログラムなどあらゆる場面において情報を活用させる機会をさらに増やす必要がある。

会計学科では、「会計学の知識」「財務分析力」が飛躍的に上昇しているのが特徴である。会計学科は入学時より、会計学に対する明確な目標（資格等）を立てて学修に取り組んでいる学生が多いため、会計学の専門性が特に高まっていると言える。実際に 2022 年度卒業生は、日商簿記 1 級保有率が 25.0%、日商簿記 2 級保有率 74.1%、税理士科目の簿記論合格率は 20.0%、会計士科目の短答式合格率は 10.0%であった。逆に「職業倫理観」の伸び率が低いのは問題である。職業会計人には高度な倫理観の保持が求められるため、多くの授業において「倫理観」を養う内容を取り入れているが、学生自身、知識と実践が結びついていない可能性が考えられる。授業運営において倫理観を高める工夫をする必要がある。